

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 30 日現在

機関番号：32617

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24520406

研究課題名(和文)近代日本に於けるインド学仏教学の成立と展開 その書誌学的、文献学的研究

研究課題名(英文)Establishment and Development of Indian and Buddhist Studies in Modern Japan

研究代表者

金沢 篤(KANAZAWA, Atsushi)

駒澤大学・仏教学部・教授

研究者番号：20286686

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,900,000円

研究成果の概要(和文)：この書誌学的・文献学的研究は、「インド学・仏教学の成立と展開は、近代日本人の精神形成とも密接な関わりを持つものであり、近代以降世界的な規模で爆発的に激化する出版文化、膨大な数量に上る硬軟・多様性に富む個々の書物への審及を通じてのみ闡明し得る」との堅固な見通しの下に開始された。

だが書物の大半は散逸し、今や歴史の渦の中に埋没しつつある。それら貴重な書物の収集とその書誌の作成、さらに個々のトピックに肉薄するそれらのきめ細やかな解読と総合を継続的に累積することによって、その成立と展開の実相を、具体的かつ生き生きと、歴史的に解明した。

研究成果の概要(英文)：Establishment and development of Indian and Buddhist Studies in Japan has a close relationship with the formation of the spirit of Modern Japanese. And it can be clearly understood only through consultation with publishing culture explosively intensifying on a global scale in the modern era, or individual books rich in hard and soft and diversity amounting to huge quantity. Under such a robust outlook, the present bibliographic and philological study was initiated.

Alas the majority of these books was dissipated, now is being buried in the vortex of history. But the research agenda was achieved by collecting the rare books, making the detailed bibliography of them, and continuously accumulating fine-grained understanding of them.

研究分野：人文学

キーワード：書誌学 近代日本 インド学 仏教学 比較思想 東西文明 比較文学 サンスクリット

1. 研究開始当初の背景

① 研究の学術的背景

インド学仏教学に携わる者たちにとって、その学問がわが国にどのように始まり、どのように根付き、どのように展開したかは、重大な関心事である。インドの古典語などによって書かれた原典と翻訳とそれらに基づく様々な研究の蓄積ぶりを尋究することは、研究を学問として成立させるためにも不可欠の行為である。先学の研究を知らずに自らの研究成果を世に問うという愚挙が横行しているが、そうした風潮に警鐘をならす役割を果たすとも考えられる。

過去に、我が国に於ける『カーマ・スートラ』の受容をめぐる、合計218頁にも及ぶ「『カーマ・スートラ』は如何に受容されたか? 『印度愛経文献考』周覧(1)」、「『印度愛経文献考』周覧(2) 異訳・異本・異版の問題を中心に」、「ラメレス訳『カーマ・スートラ』の変遷 『印度愛経文献』考(3)」といった研究成果を発表している。さらにそれらを継承発展させて、平成19年度より22年度にかけては、より広い見地に立って、「『カーマ・シャーストラ』の発見と受容 その書誌学的、文献学的研究」を鋭意企図遂行し、その成果も「戯曲『シャクンタラー姫』の和訳 『カーマ・シャーストラ』受容史構築のために」、「泉芳環教授著訳書論文目録」、及び「梵文『般若心経』(小本)の「空」として発表している。平成22年度には、駒澤大学特別研究助成金を得て「近代日本における『般若心経』の発見と受容」という研究を行っている。本研究は、それら一連の研究の延長線上に位置づけられる。研究方法に習熟し、そのノウハウが本研究に於いても存分に発揮され、きわめて効率のよい研究となる筈である。

2. 研究の目的

鎖国に終止符を打ち、明治政府によって推進されることになった近代日本の歩みは、同時に日本人の新しい精神的な規範を模索する営為でもあった。その一つの基幹に据えられることになったのが年来の仏教であり、仏教の研究と仏教を輩出したインドの文化宗教の研究が求められたのである。西洋の先進諸国に伍すべく、仏教を新たな視野の下で見直す作業が火急のものとされ、西洋の近代インド学仏教学を手本に、わが国にも遅ればせながらインド学仏教学が成立することとなった。本研究は、そうした「近代日本に於けるインド学仏教学の成立とその後の展開」を、刊行された数多くの書物の具体的に即して明らかにしようとするものである。

明治以降、おびただしい数量の書物が刊行され、多くの日本人を啓発啓蒙したことが伝えられている。国会図書館や日本各地の図書館などにその一端が収蔵されていてその実情をかいま見ることができる。インド3500年の歴史、仏教2500年の歴史、日本仏教1500年の歴史に比して、たかだか140年前に端を発する歩みとあなどるなかれ。いつ誰がどこで如何なる書物を著し、出版したか、などなどは、わけなく知れると思いがちである。書物には奥付があり、書名と著者と出版年月日、出版社などなどは、労なくして知れると確かに思いがちである。だが実情はさにあらず、そうした作業は決して容易なことではないのである。書物は散逸し大半は失われ埋もれてしまっているのである。誤解と誤記が山積みなのである。こうした展望に立って企図されたのが、本研究である。散逸のままに放置された膨大な数量に及ぶ書物群、近代日本に於けるインド学仏教学の成立と展開の様を、

そうした個々の具体的書物に直に踏まえて俯瞰してみるとというのが、本研究である。コンピュータが日増しに生活の中で重きを為し、ともすると書物というメディアは既に後退を余儀なくされている。アナログ的媒体をデジタル的媒体に変換して蓄積保存する動きは世界の随所で展開されているのも事実である。本研究も大局的に見れば、そうした壮大なプロジェクトのささやかな一隅を担うものとして位置づけられるが、縦割りの総花的な動きでは、時代を動かした個々の人間のエネルギーな軌跡は捉えきれないと申請者は考える。歴史の大いなる流れの中の一点に狙いを定めそれに執拗に纏い付く作業こそ、真の歴史的な流れの再構築には不可欠である。本研究が目指すのは、そうしたことである。

3. 研究の方法

本研究は、具体的には以下の4点を軸にしたものとなる。

<1>留学生による西洋のインド学仏教学の発見～伝記・回想録・大学の沿革史等を中心に

<2>わが国への研究の紹介の実情～翻訳（重訳）の意義付け

<3>わが国のインド学仏教学の成立～大学に於けるインド学仏教学講座とその担当者を中心に

<4>雑誌新聞及び教科書・講義録を含む文献資料の収集と整理

調査研究はいずれに関しても明治期以降に私的公的に刊行された広範な書物の収集整理に立脚したものとなる。特に大学の教科書・講義録は一般の書物とは異なって、これまでデータとしての蓄積がほとんどないが、それを積極的に掘り起こすことの意義は大きい。

近代日本に於けるインド学仏教学の成立と展開は、国立大学と宗門大学の専門

講座の担当者たちによって推進されたとの視点に立って、各大学で編纂されている大学の沿革史を積極的に活用する。その一方で、インド学仏教学の成立と展開に預かった者の大半が仏教各宗派の僧籍を持つ者であったとの視点に立って、日本仏教各宗派の動き・歴史への顧慮を怠らない。一般仏教徒を対象にした『仏教』誌、『無尽燈』誌、『中央公論』誌などの諸雑誌や、『中外日報』紙などの新聞記事などの精査を心がける。その結果、本研究の成果は、きわめて精度の高い利便性のある「近代日本のインド学仏教学の成立と展開」に関わる網羅的な書誌をもたらすものになる。

4. 研究成果

[2012年度]

古い書物は入手が困難であり、当初、成果をあげることもかなりの困難が予想されたが、幸い国会図書館の蔵書で著作権の切れた古い書物が続々と電子化され、PDFとしての公開が促進され、本研究の資料収集の効率を飛躍的に向上させた。最終的なデータ処理のためのコンピュータやスキャナを設置を後回しにして、PDF資料を手軽に参照する携帯可能なビューアなどをフルに活用して、初年度としては予想以上の成果をあげることができた。

また、本研究の推進の為には、書物の流通させる状況の調査、出版の事情の調査も不可欠であり、その為に、近代における活字印刷と出版のメッカたるドイツのライプツィヒなどへ出張し、国立図書館や博物館での現地調査を進めることができた。

膨大な資料をどのようにして組織的に活用して、成果を出すかという方法的な模索も初年度の一つの大きな課題であったが、縦割りの総花的な作業では、時代

を動かした個々の人間のエネルギーな軌跡は捉えきれないと考え、歴史の大いなる流れの中の一点に狙いを定め、それに執拗に纏い付く方法こそ、真の歴史的な流れの再構築に不可欠であるとの展望に立っての作業であったが、いくつかの事例に則して成果をまとめることを通して、その方法の妥当性も具体的に確認できた。

本研究の中心は、文献資料の収集と整理・解読を根底に持つ。古い文献は散逸し、思うように資料を参照できないとの懸念を持っていたが、国会図書館のデータの電子化が予想以上に進み、比較的効率よくその作業を遂行出来た。

海外の古い図書も、著作権の切れたものについてのオンデマンド出版も盛んで、各種刊本も比較的容易に参照できるようになった。

またインターネット上では様々な情報が飛び交っており、方法的なぶれのない組織的な作業を通じて、かなりの具体的な知見を得ることができた。

- (1)近代日本に於けるサンスクリット学の成立
- (2)近代日本に於ける仏教学成立の社会的背景の実情
- (3)近代日本のインド学仏教学の成立に関与した東西交流の実情
- (4)著作権の明確に確立していなかった時代の出版事業の実情

といった観点に立っての資料収集・整理・解読作業を、効率よく進めることが出来たことが何よりも大きな理由である。

[2013年度]

初年度の継続として PDF などで蓄積された資料の収集と解読とその解析を意欲的に展開し、昨年の成果を大きく更新する作業にあたった。併せて今後の作業

を見越しての新たな資料の蓄積をより広範に心がけた。当初今年度に予定していた海外における資料収集の調査などは、事情により次年度に持ち越したかっこうになった。

だが、研究方法の見直しと練磨を有意義に進め、近代日本におけるインド学・仏教学の成立と展開に寄与した内外の人物の具体的な文献資料の収集と解読と解析を集中的に実施することにより、その成果をいくつかの論文にまとめることが出来た。

古い書物は入手が困難であり、当初、成果をあげることもかなりの困難が予想されたが、幸い国会図書館の蔵書で著作権の切れた古い書物が続々と電子化され、PDF としての公開が促進され、本研究の資料収集の効率を飛躍的に向上させた。最終的なデータ処理のためのコンピュータやスキャナの設置を後回しにして、PDF 資料を手軽に参照する携帯可能なビューアなどをフルに活用して、初年度としては予想以上の成果をあげることができた。

また、本研究の推進の為には、書物の流通させる状況の調査、出版の事情の調査も不可欠であり、その為、近代における活字印刷と出版のメッカたるドイツのライプツィヒなどへ出張し、国立図書館や博物館での現地調査を進めることができた。

膨大な資料をどのようにして組織的に活用して、成果を出すかという方法的な模索も初年度の一つの大きな課題であったが、縦割りの総花的な作業では、時代を動かした個々の人間のエネルギーな軌跡は捉えきれないと考え、歴史の大いなる流れの中の一点に狙いを定め、それに執拗に纏い付く方法こそ、真の歴史的な流れの再構築に不可欠であるとの展

望に立っての作業であったが、いくつかの事例に則して成果をまとめることを通して、その方法の妥当性も具体的に確認できた。

[2014 年度]

最終年度となる筈の本年は、きめ細やかな資料収集と解説を継続し、その解析・総合をさらに一段と意欲的に展開させ、欠落していた留学情報の一端を海外出張による現地調査などにより補填し、書誌学的・文献学的な成果を系統的に取り込んだ、総括的な論文をまとめる予定であったが、予想外の公務繁忙により、十分にそれを達成出来なかった。不十分な点を研究期間を延長しての次年度に持ち越すことになったが、西欧に於けるインド学・仏教学の成立の影響下に自身のインド学・仏教学の構築を志した近代日本人の実情を書誌学的文献学的観点より総合的に総括する作業に着手し得た。

三年目に当たる本年は初年度、次年度と同様に、資料収集と解説に基づく、近代日本におけるインド学・仏教学の成立と展開に関わる、個別的な調査と分析の成果を何点か論文という形で公表したが、方法論上の新たな試みとして、有用なものである「翻訳と引用」の観点を導入し、新たに近代日本における一般人に向けての翻訳文化の実情の一端を調査した結果、その一般向けの翻訳が、インドと仏教の専門家達にも見られる無知と誤解に深く影響を受けたものとなっていることを具体的に明らかにした。

[2015 年度]

当初の年限を一年延期して臨んだ真に最終年度となる本年は、いっそうのきめ細やかな資料収集と解説を継続し、その解析と総合をさらに一段と意欲的に展開

させ、欠落していた資料・情報などを二回目の海外出張による調査などで補填し、書誌学的・文献学的に充実した研究論文の完成を目指すこととなった。

本年は、前年度までと同様に、資料収集と解説に基づく、近代日本におけるインド学・仏教学の成立と展開に関わる、やはり個別的な調査と分析の結果を、具体性をもった何点かの論文として公表し、方法論上の新たな試みである「エピグラフなどに具体化する、翻訳と引用」の観点よりの整理とその有用性、可能性を具体化した。

なお未発表の研究成果は、2016 年度中には公表したいと考えている。

5. 主な発表論文等
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 14 件)

金沢篤、カーマの死—Kālikāpurāṇa 第 42 章を読む—、駒澤大学仏教学部研究紀要、査読無、74 号、2016、372-316 頁

金沢篤、ダルマキールティの恋歌、インド論理学研究、査読有、8 号、2015、335-364 頁

金沢篤、忘れ得ぬ人々—松本悟朗から高橋五郎の方へ—、駒澤大学仏教学部論集、査読無、46 号、2015、388-370 頁

金沢篤、「盲亀浮木の喩」と定家の恋歌、駒澤大学仏教学部研究紀要、査読無、73 号、2015、202-180 頁

金沢篤、śabdatattva とスポーツ説批判、インド論理学研究、査読有、7 号、2014、363-387 頁

金沢篤、Muṇḍaka Upaniṣad III-1-1—エピグラフに見るインド受容—、駒澤大学仏教学部論集、査読無、45 号、2014、462-431 頁

金沢篤、幸田露伴『風流佛』の言語道断、駒澤大学仏教学部研究紀要、査読無、

72号、2014、172-146頁

金沢篤、忍滑谷快天ノート(2)―仏骨奉迎の顛末―、駒澤大学禅研究所年報、査読無、25号、2013、452-429頁

金沢篤、智慧の木―仏陀の生涯との関わりで―、インド論理学研究、査読有、6号、2013、173-203頁

金沢篤、エドウィン・アーノルドと近代日本―和訳と八巻本詩作品集他についての補足―、駒澤大学仏教学部論集、査読無、44号、2013、448-420頁

金沢篤、レーリヒと河口慧海―レーリヒ父子来日の事情を探る―、駒澤大学仏教学部研究紀要、査読無、71号、2013、270-244頁

金沢篤、忍滑谷快天ノート(1)―欧米巡錫の実情―、駒澤大学禅研究所年報、査読無、24号、2012、232-213頁

金沢篤、エドウィン・アーノルドの『アジアの光』を読む、インド論理学研究、査読有、5号、2012、255-299頁

金沢篤、正宗白鳥の夢(1)―「ダンテについて」の本文批評を中心に―、駒澤大学仏教学部論集、査読無、43号、2012、498-470頁

〔学会発表〕(計6件)

金沢篤、Bhagavadgītā IX-26について、インド論理学研究会、2016年5月

金沢篤、Bhagavadgītā II-46、インド論理学研究会、2015年12月

金沢篤、現代詩人と仏教―オクタビオ・パスのインド理解を中心として―、駒澤大学仏教文学研究所主催公開講演会講演、2015年10月

金沢篤、智慧と慈悲：法華経―その多様な世界―、平成26年度秋季駒澤大学公開講座・講座I、2014年11月

金沢篤、G・エリオットとマックス・ミュラー、平成25年度春季駒澤大学公開講座・講座I、2013年6月

金沢篤、ヴェーダーンタ学派の「語からの生起」―シャンカラの所説を中心に―、第58回国際東方学者会議シンポジウムI、2013年5月

〔図書〕(計0件)

〔産業財産権〕
○出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
ホームページ等
駒澤大学図書館駒大電子紀要検索
<http://www.lib.komazawa-u.ac.jp/>

6. 研究組織

(1) 研究代表者

金沢篤 (KANAZAWA, Atsushi)
駒澤大学・仏教学部・教授
研究者番号：20286686

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：